

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 13 日現在

機関番号：34416  
 研究種目：基盤研究(C)  
 研究期間：2010～2012  
 課題番号：22530819  
 研究課題名（和文）  
 学校ケースメソッドの開発・普及システムの構築  
 研究課題名（英文）  
 Developing System to Make and Diffuse School Case Method  
 研究代表者  
 安藤 輝次（ ANDO TERUTSUGU ）  
 関西大学・文学部・教授  
 研究者番号：70143930

### 研究成果の概要（和文）：

本研究の結果、(a)グーグル Wiki を使って、教育実習で遭遇する典型的な事例やスクールサポートについて悩みと解決策を書き込ませ、それを大学の授業で検討させると、自力で問題解決できるようになった。そして(b)問題解決の枠組みを理解すると、現職研修と同程度の解決策まで見出せることも分かった。また、ケース素材とその蓄積のために、(c)教員志望学生と若手教員向けそれぞれのオンライン学習室 (ID とパスワードで入室可) のホームページを開設した。

### 研究成果の概要（英文）：

The findings of my research are as follows. (a)If undergraduate students discuss the typical problems of student teachers by way of Google's Wiki pages, they are somehow able to solve them by themselves. (b)If undergraduate students have the framework to understand the problems school teachers frequently face, they are able to suggest the problem solving as the same as the teachers. (c)In order to collect case materials, online guidance system for student teachers as well as school teachers is developed.

### 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2011 年度	700,000	210,000	910,000
2012 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,600,000	780,000	3,380,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：ケースメソッド、教員養成、教師教育、教育実習生、若手教員、インターネット

- |                                     |  |
|-------------------------------------|--|
| 1. 研究開始当初の背景<br>教員を養成する大学側は学問的に、教員を | 採用・研修をする教育委員会側は、熱意や積極性などに力点を置く傾向がある。そのギャ |
|-------------------------------------|--|

ップを埋めるために、学校問題にかかわるケースの使用を通じて、なし、そして他人に教えることによって学ぶことができる学校ケースメソッドが有効である。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、第一には、研修で使うケース教材やティーチング・ノートを開発するためのシステムを構築し、第二には、学校ケースメソッドを使って、教員志望学生と若手教員（教職3年目まで）の研修システムを構築することである。

## 3. 研究の方法

次の4つの方法で研究を進めた。

- ①教育実習終了後の学部生の典型的な失敗事例をその後の学びに生かせるケース教材とティーチング・ノートを作成する。
- ②初任研から3年目までの若手教員の失敗事例を収集し、それを手掛かりに若手教員向けのケース教材とティーチング・ノートを作成する。
- ③インターネット上に教員志望学生や若手教員を対象とした「相談室」を設け、問題解決に寄与するだけでなく、ケース教材とティーチング・ノートを開発するための素材を集めるためにも役立てる。
- ④インターネット上に学部の授業や若手教員の研修で使うためのケース教材とティーチング・ノートを掲載し、学校ケースメソッドの普及に役立てる。  
なお、個人情報の保護を考慮して、③と④については、IDとパスワードによってのみアクセスできるものとする。

## 4. 研究成果

平成22年度

- (1)教員養成段階における失敗事例は、学部実習生の失敗事例集を基にして、教職大学院生の失敗事例との異同を明らかにした。
- (2)それに関連して、日本教育大学協会研究会において教職大学院1回生の学びの歩みにそって到達点と課題を明らかにした。
- (3)教職3年目までの2つの小学校の若手教員を対象にほぼ1年間にわたって悩みを聞き、授業参観も重ねながら、初期教師教育における到達点と課題を明らかにした。
- (4)それに関連して、若手教員と学部実習生の失敗事例との異同も確認した。
- (5)(3)で取り上げた一つの小学校において、①イオネットの電子掲示板で若手教員が授業公開や教材研究で遭遇する諸問題を共有させ、メンター教員や私も参画しながら、指導助言も加えて、問題解決を行うクラウド・システムを導入した結果、若手教員が忌憚なく意見を交わし、悩みを共有し、力量形成で有効であるとの感触を得た。

- (6)それに関連して、奈良教育大学教職大学院紀要において今回の研究成果を発表するとともに、①はファイル添付ができないので、今回は②Googleグループのホームページでその問題を解決した。今後は相互の機能的統合が必要であるという課題があったが、これについては、平成23年1月にGoogleグループのHP改革がなされたので、両機能を統合したホームページを試作できた。

平成23年度

- (7)インターネット活用した教職3年目までの若手教員の研修

奈良県G市立T小学校の若手教員8名が1学期(6月～7月:計3回)と2学期(10月:計4回)にそれぞれ1回ずつ研究授業を行ったが、そのための教材研究、学習指導案づくり、そして、授業後の反省をグループ・ホームページのマイサイト(同校教員14名と私の計15名のみ閲覧可能で、全72頁)を活用した。その結果、ネット上の質疑応答が有効であることが分かった。

- (8)教職1年目及び2年目の若手教員に関する悩みの調査

上記の(7)では非常勤講師も含んでおり、教職初心者の力量把握をより正確に行うために夏休み中に教職大学院を修了した教職1年目と2年目の若手教員12名を対象に『教育実習生の失敗事例集』のうち今なお解決が困難なケースを選んでもらい、初心者教員の躓きを明らかにした。

- (9)(1)(4)(8)の調査の結果、教育実習生、新任教員((教職1年半まで)、若手教員(教職1年半～3年まで)の典型的な失敗事例は、次のようであることが明らかになった。

### 【教育実習生の典型的な失敗事例】

- 1. 発問
- 2. 教材研究の不足
- 3. 子どもとの遊び、約束、関わり方
- 4. 子どもの叱り方
- 5. 授業の時間配分

### 【新任教員の典型的な失敗事例】

- 1. 発問
- 2. 子どもの叱り方・けんかの処理
- 3. 教材研究の不足や時間不足
- 4. 子どもとの関わり方
- 5. 子どもを授業に集中させる

### 【若手教員の典型的な失敗事例】

- 1. 発問
- 2. 子どもの叱り方・けんかの処理
- 3. 子どもへの言葉遣い・関わり方
- 4. 教材研究の時間不足
- 5. 授業後の後始末

- (10)インターネット活用した教育実習を経験した学部学生の力量形成

奈良教育大学で教育実習を経験した学

部生を対象にした私の授業「指導と評価」において、グーグル・ホームページのマイサイト(受講生8名と私の計9名のみ閲覧可能で、全46頁)に教育実習生、教職1年～2年目と3年目の教員がもっとも躓いている悩みトップ10を掲載し、それと絡めながら、自分たち自身の実習での失敗を出して解決策を探って、確かな力量をつけることができた。

平成24年度

- (11)グーグルグループのWikiサイトを活用して教員志望学生の主人公が遭遇する典型的な失敗事例を提示し、教員志望の学生(3回生)に「何が問題」で「いかに解決するか」を受講生にGmailを取得させ、彼らのみアクセス出来る頁に書き込ませて検討させた後、大学で討論中心の授業を行った結果、問題を考察する枠組みを理解させれば、現職教員研修とほぼ同じポイントを押さえた討論ができることが判明した。
- (12)応用編として、受講生が1年次から関わってきたスクープサポート活動に伴う悩みをケースとして出させ、同様の方式を使って授業化すると、自力で問題解決させやすいことが分かった。
- (13)この授業科目は、半期2単位の教職科目であり、教育実習着手直前に実施したが、受講生学生の事後アンケートによれば、9割近くが「理論的説明中心の授業より、役立つ」と言い、「教育実習に行くので、このサイトを引き続きアクセスできる」であるとの要望であった。

(14)ところで、全米理加ケースメソッド指導センター(NCCSTS)は、このような典型的事例の普及を行ってきたが、近年、ケースの修正にネットを活用する試みもしている。また、モンタナ州立大学は、教育実践に関わる悩みをネット活用で解決させるためのメンターとメンティの研究を行って、数年前に開設されたニューティーチャーセンター(NTC)のeMSSの開設に繋げている。確かに、ケースの普及も必要である

が、その前提となる③ケース素材の蓄積と④ケース素材の洗練が不可欠なのである。(15)このような問題意識に基づいて、③の問題解決については、装置として、上述のネットによりWiki活用を行い、(14)のように、ケースメソッドの普及にも生かした。(16)④については、グーグルグループWikiのテンプレートの制限があるが、もっと自由なフォーマットが欲しいという学生の声を受けて、2013年2月に「教員志望学生のためのオンライン学習室」と「若手教員のためのオンライン学習室」を筆者のホームページに開設した。ケースは個人情報にも関わることもあるので、IDとパスワードによって入室できるようにした。それぞれの学習室では、ケースメソッドの普及と開発の情報提供だけでなく「悩みの相談室」を開設し、⑥の素材蓄積に役立てようとするが、スマートフォンでもアクセス可能という点で米国にもない強みがある。

これらのHPは、ID・パスワード・認証番号によってのみアクセス可能であるので、外部者が見ることはできないが、その一部を紹介すると、次のようになる。

**若手教員のオンライン学習室**

- 学校ケースメソッドの導入
  - 学校ケースメソッドとは何か
  - ケース開発の3つの方法
  - ティーチングノートの要件
  - ケースとティーチングノートの投稿要領
  - 学校ケースメソッド実施チェックリスト(実施前;開始直前;実施中)
  - 学校ケースメソッドのQ&A
- ケース検討会
  - 教科指導(ケース;ティーチングノート)
  - 生徒指導
  - その他

生徒指導やその他(保護者対応等)のケースとティーチングノートなどについて、安藤輝次『学校ケースメソッドで参加・体験型の教員研修』(図書文化社、2009年)で詳述しています。
- 悩みの相談室
 

あなたがa. 年度始め、b. 指導上の問題、c. 学級経営・生徒指導、d. 子どもの学び、e. 教科内容などについて、「こんな時、どうすればよいのか?」という悩みを掲示板で相談してください。

同じ悩みを抱いていた教員を指導した先輩教員から解決策のヒントが得られるかもしれません。同じ悩みを持っている教員との問題共有も大歓迎です。まず「悩みの相談室」をクリックして、掲示板の使い方を読んでください。

**教員志望学生のオンライン相談室**

- 相談室の目的
 

掲示板を利用した相談室では、教育実習の典型的な失敗事例や皆さんが実習やスクールサポートで出会った(a)指導上の問題、(b)学級経営・生徒指導、(c)子どもの学び、(d)教科内容などで「こんな時、どうすればよいのか?」という悩みを掲示板に投稿し、皆で問題を解決することです。
- 実習生の典型的な失敗事例について
 

実習生の典型的な失敗事例は、私(安藤)がケースを載せますので、次の手順にそって「何が問題か」を掲示板を通して話し合った後、その問題に対して「いかに解決するか」ということを記述してください。学期中に最低5回は投稿を!

  - 学生の掲示板をクリックして、掲示板の最初のページの左上に「教員志望学生の相談室」と書いていることを確認する。
  - トピックに次の時間取り上げる事例を日付とともに記しているのを、そのトピックをクリックする③「新規投稿フォーム」にあなたの「名前」と「件名(問題や解決策を示したネーミング)」を記す。
  - 「メッセージ」に事例の具体的な場面も添えながら、「何が争点か」を示し、それに対する解決策を書く。
- 皆さんの実習やサポート活動の相談
 

ケースの書き方はトップページ「教員志望学生の学習室」の1B、投稿要領は1Cを読んだ後、次の①～③に従って掲示板に投稿して下さい。これも成績評価に加味しますので、是非投稿を!

  - 学生の掲示板をクリックして、掲示板の最初のページの左上に「教員志望学生の相談室」と書いていることを確認する。
  - 「新規投稿フォーム」にあなたの「名前(仮名でも結構)」と「件名(校種と学年も含む)」を記す。
  - 「メッセージ」に会話も含め、「何が争点か」を示しながら、物語風に問題を書く。その際に、人名や学校名、その他固有な名詞は仮名で結構です。なお、最後に問題に関わるキーワードを3つ程度記してください。

掲示板のアイコンをクリックしてしばらくするとリンク先の掲示板に飛びます。パスワード(1234)を入れると入室できます。



## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

- ① 安藤輝次「教員養成のための事例検討システムの構築」『関西大学 文学論集』第62巻第4号(関西大学文学部紀要)、2013年3月、59-82頁、査読なし。
- ② 安藤輝次「インターネットを活用した教職能力開発システム」『関西大学 学校教育学論集』第3号(関西大学文学部初等教育学専修紀要)、2013年3月、27-35頁、査読なし。
- ③ 安藤輝次「校内研修のあり方、進め方—三種類の研修を使い分ける—」『指導と評価』2012年8月号、図書文化社、4-7頁、査読なし。
- ④ 安藤輝次「学びの全体像を評価して、形成的機能を生かす」『教育展望 臨時増刊』No. 43、(財)教育調査研究所、2011年8月、100-107頁、査読なし。
- ⑤ 安藤輝次・三木達也「若手教員における問題解決共有システムの取組」『学校教育実践研究』第3巻(奈良教育大学教職大学院紀要)2011年3月、69-76頁、査読無し。

〔学会発表〕(計3件)

- ① 安藤輝次「大学におけるケースメソッドの開発と普及」アメリカ教育学会、2012年10月13日、九州大学教育学部
- ② 安藤輝次「教員養成のための事例検討システムの構築」日本教育方法学会、2012年10月6日、福井大学教育地域科学部
- ③ 安藤輝次・望月未生・大原麻友香「教職大学院生の力量形成の歩み」日本教育大学協会研究集会、2010年10月16日、島根大学・松江市

〔その他〕

ホームページ等

関西大学文学部における安藤研究室のHP (<http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~tando/index.html>)に今回の研究成果として「教員志望学生のオンライン学習室」と「若手教員のオンライン学習室」を開設し、それぞれについて、4. 研究成果の(16)に述べたような機能を付したページを設けた。

ただし、これらのHPには、IDとパスワードによってアクセスし、「相談室」については、さらに認証番号を付して入室できるようにしている。ケースは、たとえ匿名であっても、前後の文脈から個人情報が明らかになる可能性もあるので、許可を受けたもののみが、利用できるようにしているからである。また「相談室」については、管理者である筆者によって、掲載の可否や修正加筆もできるようにして個人情報の保護を万全にしている。

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

安藤 輝次 (ANDO TERUTSUGU)

関西大学・文学部・教授

研究者番号：70143930